

13番議員、石井勲君。

1 3 番 通告2番、13番議員、石井勲です。

町の行政運営「課題と今後の対応は」の質問項目で、町長の考えを伺います。

少子高齢化が急速に進行している。6月1日発表の厚生労働省人口動態調査統計によると、2017年の出生数から死亡者数を引いた数はマイナスで、人口の自然減は39万4,000人強と、過去最大の減少幅となった。前年の減少幅は、約33万人で、人口減少も加速化している。また、65歳以上の高齢者は、約3,500万人で全人口の28%で、前年に対して56万人の増である。神奈川県西地域大井町においてもこの傾向は同じであり、地方においては自然減だけでなく、社会減の傾向も加算され、基礎自治体を取り巻く環境は地方、小さな町ほど厳しい現実が数字となって明示されてきている。

日本の中では、神奈川県は首都圏であるが、神奈川県の中において県西地域は田舎、地方である。特に、足柄上郡地域は、開成町を除いて人口減少が顕著であり、この認識のもとに基礎自治体運営をしていかなければならない。1993年、地方分権の推進に関する決議が全会一致で可決され25年を迎える。地方分権で自治体の自由度が以前よりも増し、国の関与が減った。だからこそ、自治体は地域の実情に沿ったよいアイデアを出し、施策を着実に進める能力が問われている。地方の責任の重さを首長、議会、行政職員、住民がともに自覚し、切磋琢磨することが重要である。しかし、国の補助金を通じたコントロールが残り、実質的に大きく変わっていない面も見受けられる。財政面においては特に課題が多いと考える。税収が減少する中、住民要望は多岐にわたり、増加傾向であり、社会保障関連費用は増加し続けている。

そうした中、行政は社会資本整備の充実を図りながら、町民、住民へのサービスを維持し、いかにして安全で安心できる地域を継続、発達させていくか、決断のときが、今まさにきていると思われる。総合計画だけでなく、柔軟な町の将来像、ランドデザインを示し、決断、実行するのは町を預かる、運営、経営する首長の最大の使命、責務であると考えます。

そこで、以下の5項目について伺う。

1、長年の課題であったまち最後の都市計画道路や、役場北側の土地区画整理事業、その敷地内（仮称）大井中央公園、相互台2丘陵地の活性化、教育施設の充実等が、過去の大きな課題が近年順次事業着手され、

完成が待たれている。そうした中、現在継続されている事業以外で、まちが今後新たに取り組むべき大きな事業は何か。

2、地域活性化が叫ばれ、まちでは相和ブランドを推し進め出しているが、まちは以前より地域ブランドであるひょうたんや、まちの木キンモクセイ、まちの花スイセン、そして菖蒲園等のブランド事業を進めてきた経緯がある。これら事業を今後どのように活用、展開していくのか。

3、南足柄市、小田原市と協議の中、上郡5町で副町長等で協議してきた、あしがら地域創生連携推進協議会の現在の状況と今後の展開は。

4、今年町長在職20周年を迎えた。数々の実績を残された中での御自身の評価は。

5、6月1日、まち選挙管理委員会は町長選の日程を発表した。12月21日、任期満了を迎えるに当たっての決意は。

以上、多岐にわたりますが御答弁よろしくお願ひいたします。

議
町

長
長

答弁願ひます。

通告2番、石井勲議員からまちの行政運営と、そして課題と今後の対応はというようなことで、5点ほど頂戴しておるわけでございます。その中で、前段少し申し上げまして、そして各5項目について答弁をさせていただきたいと思ひます。少し長くなりますことをお許しをいただきたいと思ひます。

本町の行政運営のグランドデザインとなる、おおいきらめきプラン、いわゆる第5次総合計画においては、平成23年度より10年後となる平成32年度を展望いたし、まちの将来像を設定いたし、まちづくりの基本理念や施策の方向を基本構想として定めておるものでございます。現在は、後期基本計画に基づく第3次実施計画の総括の年度であると同時に、第4次実施計画の初年度であり、実施計画の効果的な継続も含め、各種施策を展開しておるところでございます。

おおいきらめきプランがスタートした平成23年度からこの間、議員おっしゃるとおり基礎自治体を取り巻く環境は大きく変化をいたし、人口減少、少子高齢化の進行に加え、社会情勢の変化や多様化する町民ニーズに的確に対応するため、基本計画の見直しを行うとともに、実施計画をもとに行政運営を進めてきているところでございます。30年度においては、「教育・保育環境の充実」を図り、「大井中央土地区画整理事業」や「相和地域の活性化」を推進するなど、総合計画に掲げた施策や事業を着実に実施していくとともに、まちが抱えるさまざまな課題への対応を、重点事業として取り組みを進めてまいったところでございます。

そのような中で、1点目の御質問でございます人口減少、少子高齢化の進行など、基礎自治体を取り巻く環境の変化に的確に対応し、おおいきらめきプランをはじめとする、本町におけるまちづくりの成果を次世代に確実につなげるとともに、まちの発展と持続可能な行財政サービスを展開するため、今後、新たに取り組むべき事業として、6事業を考えております。

1点目といたしまして、まちの新たな顔となる中心市街地の形成、2点目といたしまして、地域新電力の設立とスマートタウン構想の推進について、3点目といたしまして、公共施設の機能集約化と統廃合の検討、4点目といたしまして、幼保一元化の推進とあわせて幼児保育教育をどうしていくかというような課題、5点目といたしまして、道路網の整備と地域交通対策の推進でございます。これが町道4路線を含む新たな道路計画をつくらなければならないというようなことです。6点目としまして、パークゴルフ場の整備というようなことでございます。

そして、7点目というのは、一つ私自身が考えておりますのは、私は1市5町のごみの処理の広域化を今、進めておるところでございます。一時中断したわけでございますが、これは用地をどこに選定するか、非常に重要な課題であるわけでありまして、これらについても進めなければならない。そして、あわせて1市5町で運営をしておりますところの、衛生組合の組合長を現在しておるわけでございますが、これを57年に稼働して、もう既に老朽化の域に達しておりまして、これを35年までの延命化計画をもっておるところでございます。これをさらに延命化計画を持ち、あわせてこの事業に対しまして、2市8町でどこも処理量は減少しているわけでございますが、どうやって対応したらいいのかというようなことで、先般の西部協におきまして私から発言をさせていただき、2市8町で協議の場を西部協の中で持っていただくことを提案させていただき、これにつきまして今後そのような部会を設けていくというようなことになったわけでございます。

そのような中で、特に1点目の、まちの新たな顔となる中心市街地の形成についてでございますが、現在、推進しておるところの大井中央土地区画整理事業については、大きな財政投資を行っておることから、人口減少・少子化の進行に対応した持続可能なまちづくりを推進するとともに、安定的な行財政サービスを確保する観点からも、確実に移住・定住に結びつけ、人口増加とにぎわいの創出を図る必要があることから、子育て支援策、高齢者対策、防災・防犯対策、エネルギー対策、都市計画道路の整備や公共交通対策等について、政策間での連携による新たな

町民サービスの構築を図り、本事業において整備される住宅地や公園、行政サービス機能・福利厚生機能などが集積される大井町役場周辺を、住んでみたいと思われるような、まちの新たな顔となる中心市街地を形成させていく必要があると、強い認識を持っておるところでございます。

二つ目に、地域新電力の設立とスマートタウン構想についてでございますが、昭和30年半ばから田園都市構想というような構想のもと、第一生命の誘致等をしまして、いろいろ先人の皆さん方が苦勞され、今日の発展を遂げたわけでございます。また、それに伴うように、まちのスマートタウン構想というものは、大変重要な位置づけになろうかと考えておるところでございます。

そのような中で、再生可能エネルギーの有効利用の促進に向けた取り組みの成果を次の新しいステージにつなげるため、町内に地域新電力を設立することで、地域資源となった地産エネルギーを町内に供給する仕組みを構築することも重要であるというように考えております。設立に当たっては、慎重に検討を進める必要があるわけでございますが、地域新電力の設立により、経済の地域内循環を創出するとともに、地域課題の解決に向けたソーシャルビジネスの展開を促進することにより、エネルギーの有効活用から大井町版スマートタウンの構築を図り、新しい手法による持続可能なまちづくりにつながるものと考えておるところでございます。田園都市構想の発展的によつて、そんな事業が展開されると考えるところでございます。

三つ目の、公共施設の機能集約化と統廃合の検討についてでございますが、大井町人口ビジョンでは、平成52年には人口が1万5,817人まで減少すると推計が出されており、本町においても人口減少は避けることのできない状況にあるわけでございます。また、生産年齢人口の減少による税収の減少や、高齢人口の増加による社会保障関係費の増加が見込まれる中で、公共施設の老朽化に伴い、今後、ますます施設の維持管理や改修に係る経費が増大し、公共施設等を維持するための財源が不足することも想定されるため、平成28年度には「大井町公共施設等総合管理計画」を策定したところではあります。今後は個別計画を策定し、公共施設の機能集約化と統廃合の検討を早期に進める必要があると痛感しておるところでございます。

四つ目の、幼保一元化の推進についてでございますが、国勢調査における本町における女性の就業状況の推移を見ますと、子育て世代における女性の就業者数が調査年ごとに増加してきている状況にあり、幼稚園と保育園の入所割合を見ても、幼稚園が減少いたし、保育園が増加して

いる状況にあることから、少子高齢化に少しでも歯止めをかけるためにも、子育て支援の充実を図るとともに、子育て世代の保育ニーズに対応した施策が展開できるよう、幼保一元化等の検討が必要であると感じておるところでございます。

この辺のところは、教育費の無償化によって、大きく影響を受けることが一つ、当町だけでは予想できがたいことじゃなかろうかと思えます。この辺のところは、大きな問題じゃなかろうかなというように考えるわけでございます。保育園に行ったらしゃって、夫婦共働きで高額な保育料を払っていらっしゃる方の、幼稚園に行っている場合、保育園も無償になれば保育園に子どもさんを預けたほうがいいというようなことになるというようなこと、いろんなことを想定されるわけございまして、これは慎重に対応していかないと、今度幼保一元化をやって認定子ども園をつくったら、そこに子どもさんが集中しちゃったとかということがありますので、これらをどうやっていくかというようなことございまして。

また、近隣の幼保一元化されたところにおいては、幼児数の減少によって幼稚園にしても保育園にしても定員割れ状況があったから、この幼保一元化をされたところが多いわけございまして、この辺のところは民間がやっている施設であればよいかもしれませんが、公でやっておりますと、その住民の選択肢によって入れる子どもさんと入れない子どもさんが出てくる。この辺のところをどう整理していくか、一番の課題じゃなかろうかというように私自身思っておるところでございます。

5点目の問題でございます。道路網整備と地域交通対策でございます。本年3月に篠窪バイパスの整備が完了するとともに、都市計画道路、「金子・開成・和田河原線」については、昨年度、都市計画変更決定を行い、県において国の事業認可も取得したことから、いよいよ整備に向けて事業が動き出すこととなります。その中で、篠窪バイパスと都市計画道路、金子開成和田河原線を結ぶ町道4号線・5号線については、南足柄市、開成町、大井町、秦野市、さらには小田原市を結ぶ幹線道路として機能し、今後、交通量がますます増加することが見込まれることから、歩行者等の安全対策や広域的な道路網の整備の観点から、県道昇格について、県と協議を進めるとともに、相和地区における集落間道路の整備を推進していかなければならないというようなことが強く考えられるわけでございます。

また、新たな中心市街地の形成や、公共施設の機能集約化の検討とあわせ、人口減少及び少子高齢化の進行により、今後、増大することが見

込まれる交通弱者に対し、地域交通の確保策について、道路網の整備とあわせ、検討していく必要があると考えておるところでございます。

6つ目の、パークゴルフ場の整備についてでございます。私の公約としておりますが、高齢者の地域参加による健康寿命の延伸を図る観点から、パークゴルフ場の整備を推進するものでございまして、整備に当たっては、近隣市町の施設と差別化を図り、町の地域資源である観光施設との連携により、複合的な機能を有する施設として整備することが重要であるとともに、適地の選定に向け、早期に対応を図ってまいりたいと考えておるところでございます。

次に、大きな2点目の御質問でございます。まちな木キンモクセイ、まちな花スイセン、「ひょうたん」等がどうかという御質問でございます。

はじめに、現在のひょうたんの取り組みでございますが、施設としてはひょうたん池、4カ所のひょうたん棚を整備するとともに、ひょうたん栽培を委託しており、行事としては大井よさこいひょうたん祭、ひょうたん作品コンクール、ひょうたん池周辺でのウォーキングイベント等の開催があるわけでございます。

関連商品としては、漬物や焼き菓子、根付、ひょうたん型の日本酒などが既に販売されておりますが、最近でも新たなスイーツを製造販売する店舗もございます。これらの商品の中には、ふるさと納税の返礼品として扱われるものもございました。これからもさらなる活用はできないかと、いろんな分野で検討していく必要があると、そんな認識でございます。

そして、まちでは昨年度、農業と商工業との振興を目的として、事業者等の自発的な郷土食弁当開発を促進するための「おいまち弁当のルール」を策定したところでございますが、このルールの中には「容器はひょうたん型とする」そして「ひょうたん型のおかずを1品入れる」という項目を入れておるわけでございます。ひょうたんを意識した内容としたものでございました。既に2月の四季の里まつりに、試行的に町内の1事業者が販売を行っております。この事業への参加事業者等を増やすため、今後はPRを行ってまいりたいというようなことでございます。

これらさまざまな活動は、大井町ひょうたん文化推進協議会、大井町商工振興会、町内事業者及びまちが連携推進しており、今後もまちはこれら事業の実施及び関係団体等への支援を継続して行ってまいりたいと考えておるところでございます。

なお今後は、経済効果を従来以上に高めるため、おいまち弁当を含め関連商品の開発やPRについて関係者との連携を強化するとともに、

現在、相和地域を中心に進めている交流体験事業において、体験メニューに取り組むなど、地域の活性化、町民・事業者等の所得向上につながる取り組みをさらに展開すべきではなかろうかと、していかなければならない、そんな考えでございます。

続いて、まちなぎの木のキンモクセイでございますが、まちなぎの木にキンモクセイを指定したわけでございます。そして、各町内に配布をした実績もあるわけでございます。公共施設にキンモクセイを植えておるわけでございます。個々に家庭に配布するというのは、今日の住宅事情の中では困難かなと思うわけでございます。まちなぎの公共的な施設には、植える必要があるというような認識でございます。

まちなぎの花スイセンの活用でございますが、まちなぎの特使から、館山からこのぐらいの段ボールに年20箱くらい送っていただくというようなことで、きょうもその方と電話で話したわけでございます。6月中に送らせていただくというようなことでございます。酒匂川の堤防沿いに、スイセンを植えた過去の経緯がございました。その後どうなっているかというようなことで、その方の御協力を得た中で、順次増やしておるというような状況でございます。

おおいゆめの里においても植えたりして多くスイセンが見られるような、そんな努力はさせていただいておるところでございます。スイセンへの取り組みでございますが、まちなぎの封筒や発刊物への掲載を通して、町民への浸透を図ってまいろうというような考えでございます。特に、まちなぎのイメージキャラクターである「すいっぴー」の活動や、新たに制作したまちなぎのロゴマークなどとあわせてPRを図るとともに、さらに酒匂川沿いも含めまして、町内の公共施設に多く植えてまいりたいと、そんな考えでございます。

3点目の御質問でございますが、あしがら地域創生連携推進会議は、中井町、大井町、松田町、山北町及び開成町を構成団体として、あしがら地域の魅力の向上及び関係町の住民サービスの向上に資する広域連携の方策について協議するため、平成29年5月23日に関係町の副町長をもって設立した協議会でございます。

あしがら地域は人口減少・少子高齢化が進んでおり、生産年齢人口の減少による税収の減少や、高齢人口の増加による社会保障関係費の増加など、自治体経営を取り巻く環境は厳しさを増しておるわけでございます。このことから、広域連携による政策的な発展や事務の効率化を図ることを目的とし、広域的な課題の解決に向けた取り組み、あしがら地域の活性化のために連携して取り組む事業について協議を行ったわけでござ

ございます。広域連携の実効性を高めるために、あしがら地域における地域づくりの指針として「あしがら地域広域ビジョン」を策定したものでございます。

今後は、この指針を礎に、あしがら地域における広域連携の具体的な取り組みについて検討を進めることとなります。小田原市と南足柄市の合併が不調になったこととあわせて、これまで培ってきた足柄上1市5町の枠組みを尊重していかなければならないわけでもございまして、南足柄市も含めた中で、広域連携事業について、検討を進める必要があるというようなことを強く認識しておるところでございます。この辺についても、先般、1市5町の首長間にも提案をさせていただき、このような協議の場をつくっていく必要があるというような認識を確認させていただいたところでございます。

4点目の御質問でございます町長在職20年、実績に対する自己評価はというような御質問でございます。私が、町長に就任しましたとき、ヘルシータウンおおいを掲げまして、町長に平成10年12月22日に就任して以来、19年6カ月が経過するに至ったものでございます。

ヘルシータウンおおいは、まちの財政力の健全化とあわせて、町民の健康というようなことを目的にしたものでございます。大井町の財政状況も年々厳しさを増しているわけでもございますが、おかげさまで先人の苦勞、また議会の皆様の理解、町民の皆様の理解、また、職員の努力によってこの近隣の中では、また県下の中でも、財政力的にはいいほうに入るといような認識をしているところでございます。介護保険料においても、県下で5番目に安価に抑えることができました。また、国民健康保険税においても、なかなか運営状況は厳しいものがあるわけでもございますが、町民の皆様方の健康状態もよく、安定した運営が図ることができているといような認識をしておるわけでもございます。

そのような中、いろいろ議会や町民の皆様方の御提言をいただき、町政の推進ができておりますことをこの場をかりまして、改めてお礼を申し上げます。就任当初は、バブル経済の破綻後、不透明な経済状況のもとで、まちの状況を鑑み、財政能力に応じた施策運営をしてきたわけでもございます。当時は、1年おきに大手法人の法人税を返還するといようなことで、還付加算金をつけ、日ごとに五十何万の利息がかかってきたと、そんな経験も2度ほどさせていただいたわけでもございます。おかげさまで順調にでき得たなといような思いをしているわけでもございます。

その後、21世紀を迎え、経済構造の変革、少子高齢化の急速な進行、地球規模での環境問題、情報・通信技術の進展など、あらゆる分野に大きな転換期を迎えた中で運営してきたと、そんな思いでございます。このような中で、平成13年度からは大井町第4次総合計画「夢おおい21プラン」、また、平成23年からは第5次総合計画「おおいきらめきプラン」を策定し、「ひとづくり・まちづくり・未来づくり」に向けて、事業を推進してまいったものでございます。

具体的な取り組みにつきまして、施策別に説明させていただきますと、「協働」における町政への町民参加の分野では、平成21年度にまちの最高規範となる「大井町自治基本条例」を策定したほか、町民の意見を町政へ反映させるための「パブリックコメント手続基準」の作成、公文書等の公開について定めた「大井町情報公開条例」の制定などに取り組んでまいったものでございます。「環境共生」における、都市基盤分野では、市街地の整備として、大井中央土地区画整理事業が始まり、あわせて大井中央公園整備事業も動き出し、まちの新たな顔となる中心市街地の形成を進めることができたものでございます。

道路整備といたしましては、酒匂縦貫道の開通、都市計画道路、金子・開成・和田河原線の「足柄紫水大橋」及び「篠窪バイパス」の開通などが図られたほか、県への要請等により、酒匂縦貫道から国道255号までの区間が「かながわのみちづくり計画」において、整備推進箇所として位置づけられました。

また、地域資源を生かした観光の拠点づくりのため、「おおいゆめの里」において花木園や散策路の整備を行うとともに、ハイキングコースや酒匂川散策路・せせらぎづくり周辺については、道標整備やトイレ整備などが行われたものでございます。再生可能エネルギー等の有効活用につきましては、下山田地区の企業からの寄贈地において、他の市町村に先駆けて大規模太陽光発電所、「きらめきの丘おおい」を誘致するとともに、篠窪地区において、県内最大級のメガソーラー施設、「足柄大井ソーラーウェイ」の設置を支援したものでございます。

安全における、町民の安全・安心分野では、消防・救急対策においては、消防力の拡大・強化のための広域化を図り、平成12年度には足柄上地区1市5町で足柄消防組合を、また、平成24年度には足柄消防組合と小田原市消防組合を統合させていただいたものでございます。また、消防団活動としては、平成18年度に消防団組織の再編として第2分団を再設置するとともに、各分団の待機宿舎の整備や、装備の充実を図ってきたものでございます。

防犯対策においては、平成17年度に「にこにこパトロール隊」を発足し、各地域における自主的な防犯活動を行い、平成19年度には、あんしんメール・テレホンサービスによる防犯・防災情報の提供を始め、平成28年度には防犯灯全灯をLED化したものでございます。

健康・福祉においては、子育て育児に関する相談業務等を実施するために、平成15年度から「子育て支援センター・ファミリーサポートセンター」を開設し、妊娠・出産・子育てに対して切れ目のない支援を行う「大井町版ネウボラ」を推進しておるところでございます。また、保護者の就労等により、放課後に留守家庭となる児童の健全育成のため、児童コミュニティクラブを運営しておりますが、対象となる児童の増加に伴い、平成21年度には「かみおおい児童コミュニティクラブ」を新たに開設したものでございます。さらに、児童・生徒の健やかな成長の支援と家庭の経済的負担の軽減を図るため、小児医療費の助成対象年齢を中学校3年生までとし、今後は対象年齢の拡大を検討しておるところでございます。

高齢者の生活支援といたしましては、介護予防事業の実施や、18年度からは福祉巡回バス「ふれあい悠悠」の運行を開始したものでございます。産業においては、有害鳥獣による農作物被害を抑止するため、「大井町鳥獣対策協議会」を設置するとともに、「鳥獣被害対策実施隊」を組織して有害鳥獣の捕獲活動を推進したものでございます。また、都市と農村の交流による農業の活性化と農業の6次産業化及び商工業との連携を図るため、平成24年度に農業体験施設「四季の里」を開所し、フェイジョアなどを利用した商品の新規開発への支援をしたものでございます。

教育においては、児童生徒の安全を確保するため、小中学校の改修工事を順次実施しておるものでございますが、幼稚園においては、平成14年から3年保育を実施いたし、16年度には大井幼稚園を新築・移転するとともに、大井幼稚園、大井第二幼稚園において平成27年度から預かり保育を実施しておるものでございます。

相和地区では、園児・児童数の減少等の課題があるため、その対策として相和幼稚園では、平成27年度に通園区域を町内全域に拡大するとともに、早朝保育や延長保育及び長期休業中の保育を開始したものでございます。相和小学校では、平成27年度にICT教育推進校と位置づけ、平成28年度から小規模特認校制度を導入いたし、通学区域を町内全域に拡大するとともに、在学している全児童を対象に「放課後教室」を開設したものでございます。また、学校給食の充実を図るため、平成19年度に新たな学校給食センターを新築・整備をしたものでございます。

「計画の推進にあたって」においては、行政改革として、神奈川県内14町村において、情報システムの共同化を平成23年から実施いたしました。このことにより経費が削減できたほか、セキュリティの強化や災害バックアップの体制が確立できたものでございまして、この組合設立に当たっては当時町村部会長、また、初代の管理者を引き受けたわけですが、各県もこれを見習い、多くの各県の町村または市町村でこのような組織が誕生したというようなこととございます。広域行政としては、近隣と連携した観光事業を実施するとともに、国の地方創生事業を活用し、「あしがらローカルブランディング推進協議会」を設立いたし、あしがらエリアで統一したコンセプトのもと、地域の魅力を生かした広域的な観光PR事業を推進しておるものでございます。

また、県が推進する「県西地域活性化プロジェクト」において、本町と神奈川県及び株式会社ブルックスホールディングスで連携して推進しております未病関連の事業につきましては、平成27年度に概略提案が最優秀提案として県に採択されてから、平成28年度に三者協定を締結いたし、各種のPRイベントを経て、この4月に「未病バレービオトピア」として第一期オープンを迎えたところでございます。来場者もおかげさまで多く、盛況であります。施設の整備はこれからも続いてまいりますので、これからも気を緩めることなく、三者間の連携を緊密にいたし、事業の推進を果たしてまいりたいと考えておるところでございます。

町内への移住・定住促進に関しましては、平成27年度に「大井町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたし、平成28年度には空き家対策も兼ねてお試し住宅を整備し、平成29年度からは「三世代同居等移住定住促進補助金」の交付を開始したものでございます。これらの事業は「大井中央土地区画整理事業」とあわせて、人口減少に歯止めをかけるための一助になるものと考えております。

そのほかといたしまして、長年の懸案とされておりましたトーヨーボール跡地にはあしがらモール、スターレーン跡地にはミマスモールを誘致し、地域ににぎわいを創造したというようなこととございます。

以上が主な取り組みでございます。5期20年を振り返りますと、財政的には潤沢ではありませんでしたが、まちのため、町民のため公正無私を信条に職員ともども全力で施策を展開してまいったものでございます。その全てが完璧な成果をもたらしたとは決して思っておりませんが、一定の成果が得られたのではないかと自負しておるところでございます。いろいろと申し上げたわけとございますが、評価は、みずからがするものでなく皆様からいただくものだと考えておるところでございます。や

るべきことはまだまだ山積しており、「ひとづくり・まちづくり・未来づくり」に向けて、今、やるべきことを全力で取り組んでおる所存でございます。

最後の御質問でございます。石井議員も御存じのように、私の後援会長がちょっと入院しておりまして、先般、5月半ばにようやく退院されたというようなことでありまして、いろんな意味で後援会長も今後の判断をするというようなことございまして、あわせて各方面から6期目をやったらどうかというような強いお声も頂戴している今日でございます。

私も、なった以上は無責任に課題をほうり出してやめるということもできない立場にあるわけございまして、繰り返しになるわけございしますが、現在取り組んでおる第5次総合計画で掲げた事業を進行中で取り組まなければならない中、長期課題もありますし、これらの課題解決に町民の皆様方の御理解と御支援をいただくとともに、議員の皆様方の御指導、御示唆、また、さらには関係・行政機関の御理解と御協力を得た中で、職員とともに汗と知恵を出し、施策の実現に向けて邁進することが、私に課せられたことじゃなかろうかなと思います。町民の幸せのために、大井町の将来のために、町民の要望にこたえ、町民の持てる力を発揮して、課題に対し誠実に取り組んでまいることが、私の責務ではないかというように考えております。これからも、議会の皆様方の御理解と御協力を賜りますことをお願い申し上げまして、答弁とさせていただきます。

1 3 番 それでは、私のほうのちょっと用意していた質問を大分カットしないといけないというような状態で、端的に質問させていただきますもので、済みません、御答弁のほうをよろしく願いいたします。

順番はいろいろ変わりますが、地域ブランドの件で、長年培ってきた地域ブランド、補助金が途絶えると事業が縮小傾向に推移しているように思えてなりません。ひょうたんの育苗、菖蒲園の現況はホームページでアップされていますが、まちのブランドとしての押し出す力、投入の力は私から考えると、非常に弱くなっているのではないかというふうに感じます。

(仮称)大井中央公園にもひょうたん、ショウブ、キンモクセイ、スイセンの軸が見当たりません。どのように考えておられるのか。ここ数年、農家や商工会を通してフェイジョアを押し出していますが、産業として地域ブランドを育成するなら、生活ができる収入の予測が見えてこなければ、賛同者は増えてはこないです。私はそう思います。

しかし、人を呼ぶためのブランド化、生活できる収入が確保できなくても人を呼び込むことが可能と考えます。まちは地域ブランドで収入を確保していくのか。交流人口、にぎわいを確保するためのブランド推進か、考えを明確にすべきときであると考えます。まちの考えをお聞きします。

地域振興課長 議員御指摘のとおり、いろいろと今まで長年育ててきましたそのブランドというものがございます。また、そういったものも収入源といえますか、所得につながるようなものとして活用して推進すべきではないかと思っております。ですから、人呼びのためと、そのブランドを生かしながら人を呼び、それで地元住民等において収入につながる、そういうふうに行うべきではないかと、事業展開をするべきではないかというふうに考えます。

以上です。

1 3 番 その辺が、私なんかは今の経済の認識とは違ってきているんじゃないかと。表面だけで事業をやっているけれど、そのような今の課長の答弁のようでもいいけれど、実際に農家の方々の収入がアップしてこなければ、それが賛同者とか広がりはないはずなんです。どこの地方でも、やはりそれを一生懸命やって収入を上積みする。だから、そこの地域に住んでくれる。収入が少なくても生きがいがあるから住んでくれる。そういう施策をしていくことが必要だと思うんです。

だから私は、地域ブランド、地域ブランドって言って、いろいろなことをやってきているけれど、本当にこれで住民が生活できるような体制ができるのか、あるいはそれは外して、多くの人たちが来ていただいて、皆が楽しくにぎわいが増えれば、それから地域の人たちが事業を考えていけばいいと。やはり、どちらかに重点を移していかなければ、そんなに平らに何でもかんでもみんなというような形は、今、私は申しわけないんですけど財政、財政って言われますけれど、役場の職員を使って相当の数の四季の里とかああいう事業に使っている。私は、資金よりも役場の職員を有効活用することがまちの事業だと思っている。やはり、人的資源を有効活用するのが、これからのまちだと。行政の運営の仕方だと思う。

そういうことを考えていくと、本当に町民のためになることと、やはり形だけの事業を消化するための事業ということと、先ほど町長は抜本的に検討していかなければいけない、事業の統廃合も考えなければいけないと、私は本当に気持ちの底から意を新たにしてもらってやっていか

ないと、これからのまち運営は難しいのではないかと。その辺の気持ちを聞きたいと思って、きょう質問させてもらいました。

やはり、人口減少に関しても、相和地区は非常に大変だと言っているけれど、現実に相和の息子さんたち、娘さんたちは外へ出ている。なぜ出ていっているのか。やはり、世帯数は同じなのに、人口だけが減っている。やはりこれは何が原因なのかと。その解決を、本当に小手先だけでできるわけではないと思っている。そこに非常に莫大な費用がかかるなら、まちの行政範疇を超えていると思いますから、その辺をしっかりと考えていかなければいけないというふうに思いますけれど、その辺の考えの見直し、事業の全て、ちょっと時間がないので、全てをもう一度考えて構築していくというような考えがあるかどうか、町長お願いします。

町長 この地域ブランドであるひょうたん、まちの木キンモクセイ、まちの花スイセンでございますが、これにつきましてはいろいろ経緯があるわけございまして、まちの木キンモクセイ、まちの花スイセンは町制の丸々周年のときに、まちの鳥メジロもこういうように指定したわけございまして、それぞれ地域にいろんな思いがありまして、カワセミ当たりをまちの鳥だとか、市の鳥にしているところもあって、希少価値のあるものでは、そういうものをまちの鳥だとか、まちの花とか、秦野市さんで市の花がナデシコがあるわけございまして、これも野の咲くナデシコがだんだん減少傾向にあるというようなことで、市の花にされたわけでありまして。

そんな中で、キンモクセイについては何種類か町民に配った経緯もあるわけございまして、大体、当時住んでいらっしゃる御家庭には1本ぐらいはあるんじゃないかと。また、まちのスイセンでございますが、これについてはある有志が、酒匂川の土手沿いにスイセンを植えた経緯があって、スイセンロードをつくるなど、というようなことが。途中でその事業ができなくなったというよりも、いわゆる園芸種のスイセンを植えていたということで、雑草とスイセンとが一緒になってきてしまって、その展開が非常に難しくなったというようなことで、いわゆるニホンスイセンを酒匂川の土手沿いに植えるというようなことを私自身も取り組んできたわけございまして、いつまでたってもスイセンが増えないなというようなおしかりを何度も受けたわけございまして、そんな話を館山で事業をされている方に話しましたところ、ここ数十年ぐらいお送りをいただいているというようなことで、増えてきたんじゃないかなと思いますし、また、四季の里を整備されているボランテ

ィアの方々も、四季の里の中へ植えたらどうかというようなことで、取り組んでおるわけでございます。

ひょうたんについては、石井議員も経緯はよく御存じのとおりでございます。これはゆめ国体に合わせて、まちがひょうたんをまちのイメージキャラクターに使ったというところから、今日にきているわけでございますが、栽培についてなかなか難しいものがあるわけでございますが、これを産業につなげていくということは、ある面では難しい部分もあろうかと思いますが、ひょうたん文化推進協議会もそれぞれ応援してくださる方々とも、協議をした中で、さらなる浸透を図っていくことができればいいのかと、そんな思いでございます。

スイセンも、あそこは広いですから。それと同時にスイセンが咲くと、散歩に来た方が花を取っていかれる。ひどいんじゃないかと私自身は思っているんですが、それについても賛否意見があるというようなことでございます。いろいろ努力はしておるわけでございますが、これからもさらに努力を重ねることと、経費をどれだけ費やすかというようなことは、よくそろばん勘定しなければならない、そんな認識は持っておるところです。

1 3 番 それでは、端的に済みません。今度仮称の大井中央公園、この中にひょうたんとかスイセンとかキンモクセイは植える意思があるかどうか、それだけお聞かせください。

生活環境課長 大井中央公園の整備の段階では、まずはキンモクセイ、あるいはスイセンにつきましては植栽をしていくという、そういう考えを持っております。ひょうたんにつきましては、栽培とかそういうものがありますので。ただ、園内のサイン、看板等、そういうところで絵とかをうまくというところでは活用はできるかなというところで考えてございますので、また、この実施設計あるいは整備の段階になりましたら、そういうことも含めて対応してまいりたいという考えでございます。

以上です。

1 3 番 町長は足柄地域のみならず、県内多くの首長の先頭に立ち、先ほど答弁の中にもありましたけれど、町村会においては情報システム事業を立ち上げ、西湘地区においては消防の広域化、斎場問題を中心的に活動してこられた。これは、県民周知のことであり、町民として誇りに思っております。これからも県に対して、小さな基礎自治体がおのおの主張を陳情しても、なかなか事業化が難しくなってきたと考えております。31年度県議会議員選挙においては、上郡は南足柄と一緒に、議員が1名となります。上郡の発言と重要度は強く主張していくには、首長の

団結と力強い行政手腕が必要と考えますが、町長の考えをお聞かせ願います。

町長 まさにそのとおりではなかろうかなと思いますし、先般も知事をはじめとする県の執行部、町村会と意見の交換もあったわけでございますし、このような機会は少なくとも年2回あるわけございまして、それで県の事業の推進をお手伝いする部分もあります。我々の意見を主張する場もあるわけでございます。県も聞く耳は持ってくださいます。しかしながら、県の財政状況は大変厳しいわけございまして。やはり、その首長が積極的に動いていかなければならないというようなことは、議員御指摘のように言えるのではなかろうか、そんな思いでございます。

1 3 番 質問をきょういろいろ考えて、私も町長とは、消防団そして青年会議所とかいろんな団体、そして議会として数えたら、一般質問55回でした、と思ってました。恵まれた自然環境の中、次世代の人たちにヒト・モノ・カネ、資金を重点的に投入するのは教育であり、福祉であると考え、伸びる教育、セーフティネットのしっかりとした福祉のまちが、まちの発展に寄与すると考えておりますので、今後の行政の堅実なるかじ取りを期待して質問を終わります。

議 長 以上で、13番議員、石井勲君の一般質問を終わります。